

「チャンクで英単語」「ことまな辞書」を用いた授業実践  
～英語学習の自律化、加速化を目指して～

新潟県立新潟西高等学校 英語科 和田 朋子先生

●はじめに

本校の2学年は、入学当初から「チャンクで英単語」、「ことまな辞書」を継続して使用しています。1年次は「チャンクで英単語 Basic」、2年次は「チャンクで英単語 Standard」を用いて、朝学習、週末課題、授業での小テスト、放課後の再テストを連携させた年間計画を元に指導を続けています。「チャンクで英単語」は前任校でも採用しており、当時から生徒にとって勉強しやすい単語帳であるという印象を抱いていました。さらに本校の数年前の学年でも採用されており、年間計画の雛形もすでに完成していたという経緯もあり、本学年でも採用させていただきました。

本学年の新しい取組として、紙辞書ではなく、「ことまな辞書」を使用している点もご紹介したいと思います。デジタル世代の子どもたちにとって「ことまな辞書」はより身近な「一緒に勉強を進める相棒」になるはずと考え、すでに本校の国語科で採用されていた「ことまな辞書」を本学年の英語科でも使用することになりました。

●「チャンクで英単語」を使用した実践例

「チャンクで英単語」では、週単位の一連のサイクルを構築してきました。生徒は木曜日の10分間の朝学習で「チャンクで英単語ドリルノート」に取り組みます。土日の週末課題として、朝学習で終わらなかった分の「ドリルノート」を行います。月曜日の授業中に15点満点のうち10点以上合格の小テストを行います。生徒が「勉強しないと合格できない!」という危機感と「勉強すれば合格できるんだ!」という自信の両方を持てるように配慮して、小テストを作成しています。1年次から一緒に2学年を担当している先生の経験と力を頼って、選択問題6問と記述問題9問という絶妙なバランスの小テストを作成してもらっています(小テスト作成には、ことまな学校サポートサイトのWeb上の「テスト問題作成プログラム」を使用しています)。

生徒の取組は良好で、9割の生徒は合格しており、週末課題の「ドリルノート」の提出率も良いです。休み時間に単語帳を開いて学習している生徒の姿も見られるようになりました。不合格の生徒は金曜日の放課後に再テストを行い、合格すればその回のテストは10点と評価します。再テストが不合格だった場合は、テスト範囲の単語30個を10回ずつ書く課題を水曜日までに提出すれば、同じく10点と評価します。「再テストは絶対避けたい!」、「書く練習の追加課題は大変だ!」と言いながら、生徒は前向きに取り組んでいます。

このような繰り返し学習は生徒にとって単調に思えるかもしれません。しかし、英語を通して豊かなコミュニケーションを実現するために自分への投資として語彙力を強化していこう!というメッセージを伝え続けたいと考えています。豊富な語彙力がコミュニケーションの基盤であることを生徒が理解し、自律的に学ぶことを願って、今後も単語学習のサイクルを学年全体で続けていきます。

## 【朝学習・単語テスト・週末課題の予定表】

1 学年英語 朝学習・単語テスト・週末課題予定表（1 学期）									
朝学習（月曜日）			単語テスト				週末課題提出		
チャンクで英単語 ドリルノート			チャンクで英単語 本冊				チャンクで英単語ドリルノート		
			テスト週	ページ	単語番号	単語再テスト			
1 学期	中間 考査	4/15（月）	pp.2						
		4/22（月）	pp.2 - 3 復習		① 4/22 ～ pp.16 - 21	001 - 085	4/26（金）	4/22（月）	pp.2 - 3
					② 4/30 ～ pp.22 - 24	086 - 176		4/30（火）	pp.4 - 5
					③ 5/7 ～ pp.25 - 31	177 - 367		5/7（火）	pp.6 - 11
		5/20（月）	pp.11 - 13 復習		④ 5/20 ～ pp.32 - 34	368 - 450	5/23（木）	5/20（月）	pp.11 - 13
	期末 考査	5/27（月）	pp.14 - 15 復習		⑤ 5/27～ pp.68 - 71	0001 - 0020	5/31（金）	5/27（月）	pp.14 - 15
		6/3（月）	pp.16 - 19 復習		⑥ 6/3～ pp.72 - 77	0021 - 0040	6/7（金）	6/3（月）	pp.16 - 19
		6/10（月）	pp.20 - 21 復習		⑦ 6/10～ pp.78 - 81	0041 - 0060	6/14（金）	6/10（月）	pp.20 - 21
		6/17（月）	pp.22 - 25 復習		⑧ 6/17～ pp.82 - 87	0061 - 0080	6/21（金）	6/17（月）	pp.22 - 25
		7/8（月）	pp.26 - 27 復習		⑨ 7/8～ pp.88 - 91	0081 - 0100	7/12（金）	7/8（月）	pp.26 - 27
2 学期	夏 休 期 考 査				⑩ 7/16～ pp.92 - 97	0101 - 0120		7/16（火）	pp.28 - 31
		7/22（月）	pp.32 - 33 復習		⑪ 7/22～ pp.98 - 101	0121 - 0140	7/24（水）	7/22（月）	pp.32 - 33
					夏課題考査 pp.102 - 127	0141 - 0240		夏休み後 最初の授業	pp. 34 - 49
					※単語テストは、週の最初の英語コミュニケーション I の授業で行います。				

## I 週間のサイクル

木曜日（朝学習）→土・日曜日（週末課題）→月曜日（小テスト）→金曜日（再テスト）→（やり直し課題）

## ●「ことまな辞書」を使用した実践例

次は、「ことまな辞書」を用いたグループ学習の授業実践についてです。本学年は1 学年次から「ことまな辞書」を導入していますが、私の授業ではうまく活用し切れていない状況が続いていました。そこで、昨年度の反省を活かして、今年度は授業のやり方を変え、現在はグループ学習で「ことまな辞書」を使用し、学び合いを強化し、加速するツールとして活用しています。

## 〈授業 1 時間目〉

まず、生徒にスラッシュ(/)を入れてチャンクに区切った本文プリント(\* 1)を配布します。4 人程度のグループに分かれ、生徒同士が相談しながら、分からない単語は「ことまな辞書」で調べて、教科書本文を日本語に訳していきます。

この活動の利点の1 つめは、安易に翻訳アプリに頼らずとも、「ことまな辞書」なら即座に単語の意味を調べることができます。成句も難なく調べることができます。単語・成句調べに時間がかからないため、授業1 時間で容易に本文すべてを訳すことができます。2 つめは生徒の間に教え合い、学び合いが自然と生まれることです。辞書を調べても分からない部分は、グループ内で聞き合ったり教え合ったりして、自分たちで解決しようとしています。3 つめは教員側の利点です。まず、机間指導をしながら、生徒がどこでつまづいているのか、どの文法事項についてヒントを与えれば自力で訳せるようになるのかを把握することができます。さらに、グループの進捗状況を見ながら、文と文の繋がりについて追加質問したり、英文が全体として意味するところについて深掘りしたりする質問をする余裕が生まれます。

こうした一連の活動を通して、教員が教え込まなくても、生徒たちはグループでの話し合いの中で自分たちで答えを導き出していくことができるという気づきを得られました。

( \* 1 ) 本文プリント

Lesson 5 Living with Nature—Tekito Aonaka's Journey Section 2

When I was little, I really liked African animals. / I always wanted to do something /

for them. /

In college, I studied biology / and had a chance to visit Kenya. / There, /

some people tried to protect wild animals / as important tourism resources. /

Others tried to eliminate them / because they attacked farm animals / or damaged crops. /

I learned / that the coexistence between wildlife and humans / was a complicated issue. /

After graduating from college, I wondered / what I could do for wild animals. /

I had tried several jobs / before I decided to become a veterinarian. /

Then, I went back to Kenya / to study veterinary medicine. / After five years, /

I finally became a veterinarian / to directly save their lives. /

### NEW WORDS

ecology	ecology	ecology
biomass	biomass	biomass
ecosystem	ecosystem	ecosystem
ecosystem	ecosystem	ecosystem
ecosystem	ecosystem	ecosystem
ecosystem	ecosystem	ecosystem

### QUESTIONS

1. What is the main idea of the passage?
2. What is the main idea of the passage?
3. What is the main idea of the passage?

### EXERCISES

1. Fill in the blanks with the correct form of the words in parentheses.
2. Write a paragraph about the importance of protecting the environment.
3. Write a paragraph about the importance of protecting the environment.

### ANSWERS

1. The main idea of the passage is that the environment is important for the survival of all living things.
2. The main idea of the passage is that the environment is important for the survival of all living things.
3. The main idea of the passage is that the environment is important for the survival of all living things.

## 「ことまな辞書」を使用した学習の利点

- ① 単語・成句調べが瞬時にできる
- ② 生徒間に学び合いが生まれる
- ③ 教員が生徒の理解度を把握しやすい

〈授業 2 時間目〉

授業2時間目は、指導書に付いている付属データのパワーポイントを利用して、スライドの上部に英文、下部に日本語訳の順でテンポ良く電子黒板に提示していきます(\*2)。iPad でくじ引きアプリを使ってランダムに生徒を指名し、スピーディーに日本語訳を言わせます。前時の机間指導で、生徒に説明すべき文法事項が分かっているので、時間をかけすぎずに内容理解をすすめることができます。その後、付属のチャンクシートを利用して音読練習を行います(\*3)。その日のクラスの様子、生徒の理解度・習熟度に合わせて、サイトトランスレーションを中心にたっぷり練習する時間も確保できます。

( \* 2 ) パワーポイントスライド

Lesson 3 Living with Nature —Takita Asuka's Journey Section 2 (p.40)

9

some people tried to protect wild animals / try to 動詞の原形～しようとする

野生動物を保護しようとしている人々がいました

Lesson 3 Living with Nature —Takita Asuka's Journey Section 2 (p.46)

as important tourism resources. //

重要な観光資源として

( \* 3 ) 音読練習チャンクシート

Passes 3 Living with Nature – Takita Aoioka's Journey (pp.39-47)		
Passes	English	Japanese
1	When I was little, /	私は小さいころ
2	I really liked <i>American animals</i> . //	本当にアメリカの動物が大好きでした
3	I always wanted to do something /	私はいつか何かしたいと考えていました
4	for them. //	彼らのために
5	as a college. //	大学生で
6	I studied ecology /	私は生物科学を専攻していました
7	and had a chance to visit Kenya. //	そこでケニアで動物と暮らす機会がありました
8	There, /	そこで
9	some people tried to protect wild animals /	野生物種を保護しようとしていた人々いました
10	in important tourism resources. //	重要な観光資源として
11	I then tried to eliminate them /	彼らを根絶しようとしていた人もいました
12	because they attacked farm animals /	彼らが家畜を襲ったからです
13	or damaged crops. //	作物を壊したからです
14	I learned /	私は学びました
15	that the coexistence between wildlife and humans /	野生動物と人間の共存は
16	was an ecological issue. //	生態学上の問題でした
17	After graduating from college, /	大学を卒業した後、
18	I wandered /	をさまよったため
19	that I could do for wild animals. //	私は野生動物のために何ができるだろうかと
20	but I had tried several jobs /	試みてはいるのを見ていました
21	before I finally decided to become a veterinarian. //	最終的に獣医師になることに
22	Then, /	その後
23	I went back to Kenya /	ケニアに戻りました
24	to study veterinary medicine. //	獣医学を学ぶために
25	After five years, /	5年後
26	I became a family member's veterinarian /	家族のメンバーの獣医師になりました
27	although my <i>past life</i> lives /	私の過去の人生が今でも

生徒の声は概ね肯定的です。「みんなで協力し合って授業に取り組める」、「授業で日本語訳を自分たちでするので英語の勉強のコツが分かった」、「テスト前の勉強が楽になった」、「ペアでたくさん音読練習するのでテスト前の自学で英文の内容を覚えていて嬉しかった」といった声があがりました。

●さいごに

私が生徒に伝えたいのは、英語の勉強は高校で終わりではなく、勉強の仕方さえ分かれば自分で勉強を続けることができるということです。将来、外国語を勉強したくなる、就職先で語学力が必要とされるときがくるかもしれません。そのときに頼りになるのが中学・高校で身につけた英語の知識や学習法だと考えています。高校卒業後も、1人でコツコツと学ぶ時間を大切にしつつ、一緒に学ぶ仲間も見つけて、学習するモチベーションを維持し、将来の可能性を広げていってほしいと思います。

三省堂の「チャンクで英単語」「ことまな辞書」は、生徒が自律的に語彙力を高め、自力で英語にタックルする手法を身につけ、英語の学習効果を加速化させてくれる教材であることを、本校での英語指導を通じて現在実感しているところです。

プロフィール

和田 朋子 先生（新潟県立新潟西高等学校）



県立高校で英語を教えて19年。大学では英語ではない言語を学びたいと思いドイツ語を専攻していましたが、同時に英語の勉強も続けて教員免許を取得しました。中学時代に英語を教えてくださった先生がスペイン語を学んでおり、母語、英語に次ぐ3つめの言語を学ぶ面白さを伝えてくれたことがきっかけです。そのような理由で、多言語教育にも興味があります。時間を見つけて映画を見たり、本を読んだり、ヨガを日課にして、心の平穏と健康維持に努めています。いつも笑顔を心がけ、生徒が安心して学べるような、質問や相談のしやすい温かい教室作りを大切にしています。

1 学年英語 朝学習・単語テスト・週課題予定表（1 学期）

		朝学習（月曜日）		単語テスト				週課題提出	
		チャンクで英単語　ドリルノート		チャンクで英単語　本冊			単語再テスト	チャンクで英単語ドリルノート	
				テスト週	ページ	単語番号			
1 学 期	中 間 考 査	4 / 15（月）	pp.2						
		4 / 22（月）	pp.2 - 3 復習	① 4 / 22 ～	pp.16 - 21	001 - 085	4 / 26（金）	4 / 22（月）	pp.2 - 3
				② 4 / 30 ～	pp.22 - 24	086 - 176		4 / 30（火）	pp.4 - 5
				③ 5 / 7 ～	pp.25 - 31	177 - 367		5 / 7（火）	pp.6 - 11
	期 末 考 査	5 / 20（月）	pp. 11 - 13 復習	④ 5 / 20 ～	pp.32 - 34	368 - 450	5 / 23（木）	5 / 20（月）	pp.11 - 13
		5 / 27（月）	pp.14 - 15 復習	⑤ 5 / 27～	pp.68 - 71	0001 - 0020	5 / 31（金）	5 / 27（月）	pp.14 - 15
		6 / 3（月）	pp.16 - 19 復習	⑥ 6 / 3～	pp.72 - 77	0021 - 0040	6 / 7（金）	6 / 3（月）	pp.16 - 19
		6 / 10（月）	pp.20 - 21 復習	⑦ 6 / 10～	pp.78 - 81	0041 - 0060	6 / 14（金）	6 / 10（月）	pp.20 - 21
		6 / 17（月）	pp.22 - 25 復習	⑧ 6 / 17～	pp.82 - 87	0061 - 0080	6 / 21（金）	6 / 17（月）	pp.22 - 25
	2 学 期	7 / 8（月）	pp.26 - 27 復習	⑨ 7 / 8～	pp.88 - 91	0081 - 0100	7 / 12（金）	7 / 8（月）	pp.26 - 27
				⑩ 7 / 16～	pp.92 - 97	0101 - 0120		7 / 16（火）	pp.28 - 31
		7 / 22（月）	pp.32 - 33 復習	⑪ 7 / 22～	pp.98 - 101	0121 - 0140	7 / 24（水）	7 / 22（月）	pp.32 - 33
				夏課題考查	pp.102 - 127	0141 - 0240		夏休み後 最初の授業	pp. 34 - 49

Lesson 3 Living with Nature —Takita Asuka's Journey Section 2

When I was little, / I really liked African animals. // I always wanted to do something /  
for them. //

In college, / I studied zoology / and had a chance to visit Kenya. // There, /  
some people tried to protect wild animals / as important tourism resources. //

Others tried to eliminate them / because they attacked farm animals / or damaged crops. //

I learned / that the coexistence between wildlife and humans / was a complicated issue. //

After graduating from college, / I wondered / what I could do for wild animals. //

I had tried several jobs / before I decided to become a veterinarian. //

Then, / I went back to Kenya / to study veterinary medicine. // After five years, /

I finally became a veterinarian / to directly save their lives. //

## NEW WORDS

zoology \_\_\_\_\_

tourism \_\_\_\_\_

resource

eliminate \_\_\_\_\_

damage \_\_\_\_\_

crop \_\_\_\_\_

coexistence \_\_\_\_\_

complicated \_\_\_\_\_

veterinary \_\_\_\_\_

directly \_\_\_\_\_

## Q&A

1. Did Takita like African animals when she was little?

2. Why did some people try to eliminate wild animals in Kenya?

3. What did she study in Kenya after graduating from college?

TF

1. Takita always wanted to work at a zoo when she was little. (        )

2. For some people in Kenya, wild animals were tourism resources. ( )

3. It took her six years to become a veterinarian. ( )

## Summary

滝田さんの 幼少期	She wanted to do something for ①( ) animals.
大学時代	She studied ②( ). She learned that the ③( ) between wildlife and humans was a ④( ) issue.
大学卒業後	She went back to Kenya and became a veterinarian.

## Check

1. The train ( left / had / already ) the station when I got there.

2. I ( never / had / been ) abroad before I visited Italy in 2019.

3. My aunt ( had / for / worked ) the company until last year.

Lesson 3 Living with Nature —Takita Asuka's Journey (pp.36-47)		
p.40		
1	When I was little, /	私は幼いころ
2	I really liked African animals. //	本当にアフリカの動物が好きでした
3	I always wanted to do something /	私はいつも何かしたいと考えていました
4	for them. //	彼らのために
5	In college, /	大学で
6	I studied zoology /	私は動物学を学びました
7	and had a chance to visit Kenya. //	そしてケニアを訪問する機会がありました
8	There, /	そこには
9	some people tried to protect wild animals /	野生動物を保護しようとしている人々がいました
10	as important tourism resources. //	重要な観光資源として
11	Others tried to eliminate them /	彼らを排除しようとしている人々もいました
12	because they attacked farm animals /	家畜を襲ったからです
13	or damaged crops. //	または作物を害します
14	I learned /	私は学びました
15	that the coexistence between wildlife and humans /	野生動物と人間の共存は
16	was a complicated issue. //	複雑な問題なのだと
17	After graduating from college, /	大学を卒業したあと
18	I wondered /	私は思いました
19	what I could do for wild animals. //	私は野生動物のために何ができるだろうかと
20	I had tried several jobs /	私はいくつかの職を試してみました
21	before I decided to become a veterinarian. //	獣医師になろうと決心する前に
22	Then, /	その後
23	I went back to Kenya /	私はケニアに戻りました
24	to study veterinary medicine. //	獣医学を学ぶために
25	After five years, /	5年後
26	I finally became a veterinarian /	私はついに獣医師になりました
27	to directly save their lives. //	彼らの命を直接的に守るために